

人材養成および教育研究上の目的		
日本語日本文学専攻においては、日本文化の根幹である言語と文学の研究を深め、それが真の国際化に寄与するとの観点から、日本語学・日本文学の各分野においてカリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期では、学部の習熟度を踏まえ、研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、社会諸方面の要請に応えることのできる専門職業人を育成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程で培った専門的能力をより錬磨させ、体系的な研究業績の達成はもとより、社会に貢献する高度な専門職業人・研究者の育成を目的とする。		

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）	学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）
＜博士課程前期＞		
人文科学研究科日本語日本文学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（文学）の学位を授与する。		
知識・理解 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語日本文学に関する豊かな知識を修得し、活用することができる。（DP1） 日本の言語・文学・文化を理解し、説明することができる。（DP2） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 得た知識を元に自らの研究テーマを見つけ、論文の形にすることができる。（DP1） 理解した内容を元に幅広く見渡し、表現することができる。（DP2） 最終試験に合格している。（DP1・DP2） 	<p>【教育課程の編成】</p> <p>専修科目の演習担当者を指導教員として、指導を受けるとともに、それ以外の教員からも近接分野について学修する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>指導教員の演習・特講、それ以外の教員の特講などの科目の中で、必要な知識や理解力を身につけていく。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>修士論文や学術論文・口頭発表などにおいて、知識や理解が的確であるかにより評価する。（DP1・DP2）</p>	<p>【求める学生像】</p> <p>日本語日本文学に関する基礎学力と旺盛な好奇心を有し、新たな知見の創出を目指して積極的に取り組む学生を求める。</p>
技能 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語日本文学の専門分野の文献や一次資料を厳密に読解する能力を有している。（DP3） 文献資料や調査データを分析し、結果を幅広く活用可能な資料体として構築できる。（DP4） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの研究内容について、身につけた技能を元に正確に主張することができる。（DP3・DP4） 最終試験に合格している。（DP3・DP4） 	<p>【教育課程の編成】</p> <p>専修科目の演習担当者を指導教員として、指導を受けるとともに、それ以外の教員からも近接分野について学修する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>指導教員の演習・特講、それ以外の教員の特講などの科目の中で、読解力や分析力を身につけていく。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>修士論文や学術論文・口頭発表などにおいて、適切に資料を使用しているかにより評価する。（DP3・DP4）</p>	<p>【入学者選抜の在り方】</p> <p>入学者選抜にあたっては、筆記試験において、志望分野に関する基礎的な専門知識や研究に必要な語学力が問われる。また、面接では、研究計画書に基づき、志望分野において主体的に問題を発見し、問題解決に積極的に取り組む能力を有しているかで評価する。</p>
態度・志向性 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理に関する基本的な規範意識を身につけている。（DP5） 自らの研究課題を発見し、解決のための積極的な姿勢を持っている。（DP6） 高度な専門性を持つようとする意欲を持っている。（DP7） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的な学識と研究能力と研究倫理を身につけた者としての自覚と責任感を持って、社会に貢献することができる。（DP5・DP6・DP7） 最終試験に合格している。（DP5・DP6・DP7） 	<p>【教育課程の編成】</p> <p>専修科目の演習担当者を指導教員として、指導を受けるとともに、それ以外の教員からも近接分野について学修する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>演習・特講を通じて、研究倫理を踏まえて研究成果を学術雑誌に投稿する姿勢を身につける。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>修士論文や学術論文・口頭発表などにおいて、研究倫理を踏まえて研究課題に真摯に取り組む、文化の発展に貢献しようとしているかにより評価する。（DP5・DP6・DP7）</p>	
＜博士課程後期＞		
人文科学研究科日本語日本文学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（文学）の学位を授与する。		
知識・理解 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の研究水準を超える知識を修得し、活用することができる。（DP1） 自ら探究し、得られた知見を理解し、公表することができる。（DP2） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 修得した知識を的確に把握し、批判的に検証することができる。（DP1） 修め理解した精深な学識を元に、口頭発表や学術論文などで公表できる。（DP2） 博士論文を提出し、合格している。（DP1・DP2） 	<p>【教育課程の編成】</p> <p>専修科目の研究指導担当者を指導教員として、指導を受ける。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>指導教員が担当する特別研究・特論を通じて、学位論文や研究一般についての知識・理解を身につける。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>博士論文や学術論文などにおいて高度な研究能力と専門知識に留まらず幅広い視野を持ち得ているかにより、評価する。（DP1・DP2）</p>	<p>【求める学生像】</p> <p>博士課程前期で培ったスキルをさらに磨き、蓄積してきた研究成果をいっそう広げ深めようとする向上心・探究心を持つ者を求める。</p>
技能 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語日本文学の専門分野において独創性を発揮できる能力を有している。（DP3） 一研究者としての専門的スキルを修得している。（DP4） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 独創的な着想と方法を通じて得た知見を説得力をもって、他の研究者に伝えることができる。（DP3・DP4） 博士論文を提出し、合格している。（DP3・DP4） 	<p>【教育課程の編成】</p> <p>専修科目の研究指導担当者を指導教員として、指導を受ける。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>指導教員が担当する特別研究・特論を通じて、学位論文や研究一般についての技能を身につける。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>資料の読解・分析・討議を通じて、研究テーマを深め、成果を他者に伝えられるかで評価する。（DP3・DP4）</p>	<p>【入学者選抜の在り方】</p> <p>筆記試験、修士論文と研究計画書の内容の精査、口頭試問により、志望分野に関する深い専門的知識と問題発見能力・問題解決能力を有しているかで評価する。</p>
態度・志向性 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理に関する規範意識を身につけている。（DP5） 自らの研究を人文科学や社会との関わりから、柔軟な視点で探る態度を有する。（DP6） 未知の研究領域を開拓していこうとする積極性を有する。（DP7） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理を踏まえて、自ら設定した研究課題に真摯に取り組む、研究分野の進展に貢献しようとする態度を養うことができる。（DP5・DP6・DP7） 	<p>【教育課程の編成】</p> <p>専修科目の研究指導担当者を指導教員として、指導を受ける。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>指導教員が担当する特別研究・特論を通じて、研究倫理と学問についての柔軟な態度を学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>博士論文や学術論文などにより、学界に貢献できるだけの価値を有するものであるかで評価する。（DP5・DP6・DP7）</p>	